



平成29年3月17日 発行
 第 72 号
 浄土真宗本願寺派
 山陰教区 神門組
 発行者 藤野昭信
 TEL 0853②1628
 FAX 0853②1601

ご親教

念仏者の生き方

仏教は今から約二五〇〇年前、釈尊がさとりを開いて仏陀となられたことに始まります。わが国では、仏教はもともと仏法と呼ばれていました。ここでいう法とは、この世界と私たち人間のありのままの真実ということであり、これは時間と場所を超えた普遍的な真実です。そして、この真実を見抜き、目覚めた人を仏陀といい、私たちに苦悩を超えて生きていく道を教えてくれるのが仏教です。

仏教では、この世界と私たちのありのままの姿を「諸行無常」と「縁起」という言葉で表します。「諸行無常」とは、この世界のすべての物事は一瞬もとどまることなく移り変わっているということであり、「縁起」とは、その一瞬ごとにすべての物事は、原因や条件が互いに関わりあつて存在しているという真実です。したがって、そのような世界のあり方の中には、固定した変化しない私というものは存在しません。

え、欲望の赴くままに自分にとって損か得か、好きか嫌いかなど、常に自己中心の心で物事を捉えています。その結果、自分の思い通りにならないことで悩み苦しんだり、争いを起こしたりして、苦悩の人生から一歩たりとも自由になれないのです。このように、真実に背いた自己中心性を仏教では無明煩惱といい、この煩惱が私たちを迷いの世界に繋ぎ止める原因となるのです。なかでも代表的な煩惱は、むさぼり・いかり・おろかさの三つで、これを三毒の煩惱といえます。

私たちは阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない無明の存在であることに気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しずつでも煩惱を克服する生き方へとつくり変えられていくのです。それは例えば、自分自身のあり方として、欲を少なくして足ることを知る「少欲知足」であり、他者に対しては、穏やかな顔と優しい言葉で接する「和顔愛語」という生き方です。たとえ、それが仏さまの真似事といわれようとも、ありのままの真実に教え導かれて、そのように志して生きる人間に育てられるのです。このことを親鸞聖人は門弟に宛てたお手紙で、「(あなた方は)今、すべての人びとを救おうという阿弥陀如来のご本願

です。この願いを、本願といえます。我執、我欲の世界に迷い込み、そこから抜け出せない私を、そのままの姿で救うとはたらし続けていくとださる阿弥陀如来のご本願ほど、有り難いお慈悲はありません。しかし、今ここでこの救いの中にありながらも、そのお慈悲ひとすじにお任せできない、よろこべない私の愚かさ、煩惱の深さに悲嘆せざるをえません。

のお心をお聞きし、愚かなる無明の酔いも次第にさめ、むさぼり・いかり・おろかさという三つの毒も少しづつ好まぬようになり、阿弥陀仏の薬をつねに好む身となっておられるのです」とお示しになられています。たいへん重いご教示です。

今日、世界にはテロや武力紛争、経済格差、地球温暖化、核物質の拡散、差別を含む人権の抑圧など、世界規模での人類の生存に関わる困難な問題が山積してはいますが、これらの原因の根本は、ありのままの真実に背いて生きる私たちの無明煩惱にあります。もちろん、私たちはこの命を終える瞬間まで、我欲に執われた煩惱具足の愚かな存在であり、仏さまのような執われのない完全に清らかな行いではできません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです。

りが行動することにより、自他ともに心豊かに生きていくことのできる社会の実現に努めたいと思います。世界の幸せのため、実践運動の推進を通し、ともに確かな歩みを進めて参りましょう。

二〇一六(平成二十八)十月一日

浄土真宗本願寺派門主

大谷 光淳

第二十五代専如ご門主の「伝灯奉告法要」が十月一日から本願寺で始まり、法要初日に「念仏者の生き方」と題されたご親教(法話)を述べられましたので掲載しました。

神門組仏婦

いぶしの会

仏婦連盟委員長 山田 明子

神門組仏婦連盟では、毎年若婦人を中心に、浄土真宗の入門講座として「こぶしの会」を開催しています。

法話だけでなく、作法や普段仏事で疑問に思っていることなどを話し合う「和やかタイム」もあり、お互いの交流を深める良い機会となっています。

早いもので今年は九回目を迎え、真宗宗歌や仏教讃歌「あり

がとう」の歌唱指導もありました。

今回参加された皆様には、今後の仏婦活動に積極的に参加して頂き、仏婦活動がより活性化していくよう期待しております。

今年度の内容は次の通り。

日時 平成二十九年二月二十六日

会所 長楽寺(塩冶町)

参加者 五十九名

講師 法話「恩徳讃を味わう」

長楽寺住職 藤野 昭信師

作法 「真宗作法のイロハ」

西圓寺住職 佐々木弘信師

歌唱指導

善福寺前坊守 太田 千恵様



布野信之宗会議員退任

三期十二年にわたり、山陰教区(鳥根・鳥取)の門徒代表として宗会議員を務められた布野信之氏(神門組長楽寺門徒)が、昨年十二月の任期満了に伴い退任されました。

氏は任期中、蓮如上人五百回遠忌や親鸞聖人七百五十回大遠忌法要で尽力され、また、宗会の副議長も務められました。

永年のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後とも活躍頂きますことを念じて、ご報告致します。

中央教修了者

組で行っている連研を修了した方が本山で受ける、三泊四日の研修「中央教修」を、平成二十八年度に神門組から次の三名の門徒が受けられ、修了されました。

今後は門徒推進員として各寺院で、また、神門組で活躍頂けることを期待し、ご紹介いたします。

- 正善寺 山根省三さん
- 真宗寺 金崎 操さん
- 光林寺 神田 進さん

ご挨拶

長楽寺衆徒 藤野 敬信

今年の一月二十二日、ご縁がありまして塩治町の長楽寺へ結婚入寺し、神門組の一員に加えてさせて頂くことになりました。

私は、同じ出雲市ではありませんが、組の異なる出雲組の龍善寺で生まれ育ちました。しかし、去年得度を受けさせて頂くまで、仏事とは無縁の生活を送って参りましたので、まだまだ分からないことや、初めて経験することばかりで、度々冷や汗を流しています。

私にとって得度習礼の十一日間は楽しいものでした。それは恐らく自ら僧侶になることを決め、学ぶ意識を持って挑めたからではないかと思えます。これが仮に、高校生の時に親に言われて来ていたとしたら、講義の最中に居眠りをしていたことでしょう。同じ得度習礼を受けても、感じ方は千差万別。同じ法話を聞いても、また同じ。

これからお取次ぎをさせて頂く身となりますが、ご門徒の皆様が届く言葉を掛けられる人間に、そしてなにより、話を聞いて頂ける人間になれるよう、努力して参りたいと思います。

僧侶として歩み始めたばかりの若輩者でございますが、御指導ご鞭撻のほど、宜しくお願ひ申し上げます。 合掌



神門組門推協議会 「住職との意見交換会」 に参加して

願楽寺門徒推進黨員 今岡 昌紀

本年度は去る九月二十七日、「浄土真宗のみ教えを受け継ぎ、伝えること」をテーマにビッグハート出雲で開催。ご住職六名、門徒推進黨員三十五名の参加がありました。

テーマ説明の後、『伝灯奉告法

要についての消息』をもとに四班に分かれて話し合いを持ち、各班のまとめ発表では、「文章に難しい所があった。自分が生かされている気持ちを持って回りの人に伝えたい。阿弥陀さまを中心にした生活をしている。自らが模範となる生活を送りたい」など、たくさん意見があったと報告されました。

まとめとして組長長楽寺様から「阿弥陀仏の呼びかけを常に考えて日常生活を送ることが大切です」とお導きを頂きました。

また、閉会の挨拶で奥井副会長からは「実践運動に一層の努力を重ね、資格ではなく自覚を持って率先してお寺の行事に参加し、一人でも多く家族や知人をお誘いすることが大事では」と問いかけもありました。

今年度の連研は、申し込みが少なく開催されませんでした。連研は人生の拠りどころとなる親鸞聖人のみ教えを、共に聴き語り合い、み教えに問う中で新たな自分に気づかされる場であります。一人でも多くの方に参加して頂き、「中央教修」を経て、この連絡協議会にも参加して頂きたいと思えます。

始めなければ何も起こりません。先ず連研受講を勧めましょう。 合掌

第五回

若手寺院関係者の集い

真宗寺 堀西 雅亮

五十歳未満の寺院関係者（僧侶や寺族）が、お互いに知り合い、気軽に話し合う機会を持ちながら、新しい取り組みへとつなげていくことを目的とした「若手寺院関係者の集い」。今回で五回目となる集いが、昨年十二月二十六日、市内の飲食店を会場に開催されました。

今回も前回に引き続き、出雲組、出雲南組にも参加をよびかけたところ、三組合わせて十七名の参加がありました。

まず神門組組長よりご挨拶いただいた後、各組の代表の方に組の活動についてご紹介をいただきました。

その後の懇親会では、自己紹介やゲームも交えつつ、和やかな雰囲気の中で、それぞれのお寺の活動や近況、課題などの情報交換・共有を図り、懇親を深め合いました。

初めてのご参加もあり、若い世代のつながりが組を超えてますます広がっていくことを心強く感じた、この度の集いでした。

合掌

総代会

組内寺院巡拝

事務局 能正寺 大梶 香恵

昨年十月十四日、午後一時五十分より、神門組総代会組内寺院巡拝を行いました。

今回は東部が担当であり、東林寺、正應寺、正善寺の順で参拝させていただきました。当日は気持ちの良い秋晴れで、三十八名の参加となりました。

巡拝寺院では、各寺住職調声のもと、参加者全員でおつとめをし、その後、お寺の縁起や歴史由来、現況等、平生なかなかお聞きできないような貴重なお話をいただきました。また、正善寺ではご住職の法話を聴聞し、大変有意義な時間を共にさせていただきました。

こうして寺院巡拝させていただくことで、神門組皆様のお念仏の輪が益々広がりますことを念じております。

巡拝寺院の住職をはじめ、事前調整、打ち合わせ、準備、当日の進行等でご協力いただいた東部の総代さんに心より感謝申し上げます。組内寺院巡拝はまだ続きます。次回は中央部の数力寺を巡拝する予定です。



寺族婦人会研修に参加して

真宗寺前坊守 堀西 久子

神戸のモダン寺参拝と小磯記念美術館見学という企画に二もなく飛びついて、昨年十月六日の寺族婦人会の研修に参加しました。関西で生まれ育って、神戸のモダン寺と親しみを込めて呼んでおりましたが、神戸別院にお参りするのとは今回が初めてでした。

港町神戸にあつてお寺としては異色のデザインで、インド仏教の様式を取り入れた特徴のある外観は圧倒的でした。エキゾチックな趣のご本堂で皆さんとご一緒にお勤めにあえて、とても不思議な感慨を覚えました。

小磯記念美術館では企画展も開催されていましたが、何と見ても小磯作品の中で以前から見

たかった「二人の少女」や「着物の女」を間近に鑑賞でき、慕わしさが心に満ちてくる思いでした。今回は久方振りの参加でしたが、バスの旅は往路も復路も、平素のご無沙汰をおしゃべりで埋め尽くすほどの楽しいものでした。お世話を下さった皆様にご感謝申し上げます。合掌



お悔み

次の方々のご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- ◎善福寺(上島町)前住職 太田周見様(71才) 平成28年12月31日
- ◎願楽寺(白枝町)前坊守 西本直子様(83才) 平成29年 1月16日

平成29年度 神門組事業・教化団体事業 予定

神門組事業

- ☆連研 4月～9月の毎月最終日曜日
- ☆広報 「広報かんど」年2回発行
- ☆僧侶研修会 年2～4回開催
- ☆若手寺院関係者の集い 年1回開催

実践運動

「神門組ホームページ」開設

組教化団体事業計画

- ☆総代会
 - ◎総代研修会(南部担当) 期日:10月2日(月) 会場:中央ブロック寺院
 - ◎寺院巡拝 期日:10月2日(月) 会場:中央ブロック寺院
- ☆仏社連盟
 - ◎組連盟総会・研修会 期日:7月17日(海の日) 会場:長楽寺
- ☆少年連盟
 - ◎児童念仏奉仕団(京都) 期日:8月3日～5日
- ☆仏婦連盟
 - ◎組仏婦大会 期日:6月11日(日) 会場:正蓮寺
- ☆門推協議会
 - ◎総会・研修会
 - ◎ご住職との意見交換会
- ☆寺族婦人会
 - ◎組寺婦総会・研修会 期日:5月24日(水) 会場:今市 西楽寺
- ☆コール・連 11月・1月を除く月1回